2）臨床獣医師の職場環境：現状と課題

谷　千賀子
（プラチナベテヘルパーサービス）

【背　景】

現在の臨床獣医師の職場環境は長時間労働、夜間診療、休日、産前産後休業と育児休業、パワーハラスメント等の問題点があるといわれている。それは、約40年前から問題になってきたことでもある。一方でアメリカやカナダでは、女性獣医師が80%以上であり、日本もその状況に近づくことが予測される。そこで日本の現状と課題を知り、今後の環境を改善するための必要な要因を調査した。

【材料と方法】

5県の6診療所（共済5、開業1）を対象に、仕事の内容、職員の男女比と年齢構成、10年後の年齢構成予測等、メールによるアンケートを実施した。

【結　果】

仕事時間（通勤・昼休憩含む）は、平均10時間（8.5-12時間）であり、診療は平均4時間（3-5時間）であった。事務処理は平均2.4時間（1.5-4.3時間）、勤務医の帰宅後の事務も1.3時間（0-2時間）であり、診療所間で差があった。夜間往診は、「第一・第二当番を設定」、「一人待機」、「最寄りの獣医師に連絡」の回答があった。診療所全体の男女の年齢構成は、現在は男性（20-50代）61%、男性（60歳以上）17%、女性22%であった。10年後の予測は、人数は2割減少し、男性（20-50代）51%、60歳以上18%、女性31%となった。今までの職場の改善事例は、「人員増」、「積極的な有給消化」、「給料の増額」、「電子カルテの導入」、「大動物診療のスタイル変更」だった。現在の問題は、「広域合併に伴う長距離転勤への不安」、「仕事の安全性対策」があり、産休育休制度については「取得後に、その期間を勤務期間と見なさないため、子供を産んだ回数分の昇給昇格が遅延する。結果的に管理職女性割合が増加しない」、「人手不足により産休取得等に対応できない可能性」があった。今後の改善点は、「業務の効率化」、「長期を含む休日の確保」、「再雇用者の待遇改善」、さらに「時代にあった獣医療の提供」、「新人獣医師獲得のため仕事の魅力発信」、「女性管理職の割合を増やす」があった。

【考　察】

仕事時間は平均10時間で、診療は平均4時間であったが、主に事務処理の時間に診療所間で差があった。事務の効率化を計っている診療所が、仕事の拘束時間も短い傾向にあると思われた。構成年齢は、現在は女性と60歳以上男性の比率は39%であるが、10年後には約半数になると予想された。全体の人数の減少も予測されることから、女性や60歳以上男性が継続して働ける職場がより大切になり、産休育休の充実や、再雇用者の待遇改善は必須であると思われる。獣医師の仕事内容の見直しと環境改善により、男女や年齢の枠を超えて、優秀な人材を育成する必要性が示唆された。